

意図的な飼育による学び合いの実践～郷土の生き物「カイコ」を生かした授業づくり～

長岡市立栃尾東小学校

近藤 宏介 （平成16年度）

**私の主張**

現代社会は、目まぐるしく変化し続けている。児童の置かれる状況も同様で、家庭環境や放課後の遊び方もひと昔とは大きく変化している。児童との会話の中などから、生活経験や遊びの経験の少なさを感じることもある。ゲームや動画視聴の時間が多く、家族とのコミュニケーションが少ないという調査の結果などからも、児童は精神的にも不安定な様子が伺える。学級でもそれらの影響からか「荒れる」様子がしばしば見られる。

そこで、児童の好きな教科として上げられることが多い「理科」を通して学級を立て直したいと考えた。理科は児童の興味のある内容が多く、実験や観察を楽しみにしている様子が見られる。生き物に興味のある児童は多く、飼育したいという願いをもっている。

また、最近では小学校でも教科担任制の動向や準備などの負担から級外教員が担当するなど、「理科」を担当が教えない学校が多い状況がある。

児童の好きな「理科」を中心にして、理科の資質・能力を高めると共に、学級を立て直すことができないかというのが主張である。「他教科との連携を含めたカリキュラムマネジメント」や「魅力的な地域教材」を取り入れた実践を行った。